

歴史を感じる町並み

ぐるり陣屋跡めぐり

陣屋とは城を持たない大名の屋敷で、藩内の政治・経済の中心として機能しました。明治政府の廃城令によってほとんどがなくなりましたが、播磨にはかつての陣屋跡が数多く残っています。



姫路市 1 林田藩陣屋跡

1617年、林田藩初代藩主建部政長によって建てられた陣屋です。近くには武士だけでなく、庶民でも入学できた藩校「敬業館」があり、学問や武道の教育がさかんでした。藩校は幕末に再建された講堂が今もそのまま残っています。



姫路市林田町林田

姫路市 2 安志藩陣屋跡

1717年に安志藩藩主小笠原長興によって建てられました。現在は姫路市立安富中学校となっていますが、表門は陣屋跡近くの真光寺に、また大手門は実法寺の齋神社に移され、その姿を見ることができません。



姫路市安富町安志320-1

姫路市 3 丸亀藩興浜陣屋跡 (網干陣屋跡)

1658年、讃岐丸亀藩初代藩主の京極高和によって建てられた陣屋です。播磨1万石の支配地として網干興浜に陣屋を設置し、網干郡代を置いたものです。



姫路市網干区興浜

宍粟市 4 山崎藩陣屋跡

1679年に山崎藩藩主となった本多忠英が構えた陣屋で、幕末に建てられた本丸表門の「紙屋門」が現存しています。近くには、歴史資料を展示する山崎歴史郷土館と、旧龍野治安裁判所を移築した山崎歴史民俗資料館があります。



宍粟市山崎町鹿沢82-1

神河町 5 福本藩陣屋跡

1663年に、池田政直(初代姫路藩主池田輝政の孫)を初代藩主として立藩し、八代にわたり幕末までこの地に陣屋を構え政治を行いました。陣屋に造られた池泉回遊式の庭園は、県内では事例が少ない大名庭園で兵庫県の指定文化財に指定されています。



神崎郡神河町福本

佐用町 6 三日月藩 乃井野陣屋跡

1697年に森長俊が初代藩主となった三日月藩では、以後明治時代に至るまで、乃井野陣屋を中心とする城下町が栄えました。現在は江戸時代の建物として物見櫓や表門が整備され、出土品を展示する陣屋館があります。



佐用郡佐用町乃井野966 ☎0790-79-3002(土日祝)



魚吹八幡神社の提灯まつり

魚吹八幡神社で毎年10月21・22日に
行われる秋祭りのこと。

21日の宵宮では竹竿の先に提灯をつ
けて練り歩き、神社の入口で互いに提灯
を激しく叩き合います。竹竿の鳴る音、
人々のどよめきが混じり合って祭りは盛
り上がります。

22日の本宮では、豪華絢爛な屋台の
練り合わせが見ものです。

魚吹八幡神社秋季例大祭風流は県の重
要無形民俗文化財に指定されています。

龍門寺

1661年に盤珪
禅師が建てた
禅宗の寺。創
建には丸亀藩
京極家と網干の
豪商・瀬屋の援助がありました。寺には20以上の堂があり、播磨地方でも屈指の禅宗寺院です。



姫路市網干区浜田812 ☎079-272-1276

ダイセル異人館

ダイセルの前身のセル
ロイド社が建てた
洋風建築。会社に招いた
外国人技術指導者の
宿舎として利用され
ました。現在は資料館として無料で一般に公開されて
います。



姫路市網干区新在家1239 ☎079-273-7001



旧山本家

加藤家、片岡家、旧水井家、旧山本家

網干地区には、歴史を感じさせる住宅が多く残って
います。運送業や醤油づくりを手がけた加藤家は、主屋
や長屋門、蔵などを備え、国の登録有形文化財に登録
されています。片岡家は1702年に建てられた大庄屋
の住宅です。大正時代に建てられた旧水井家は戦前ま
で材木問屋を営んでおり、住宅に利用されている木材
は立派です。旧山本家は、大正時代に網干銀行頭取が
建立した豪華な擬似洋館が有名です。

不徹寺

1688年、盤珪禅師
の弟子である田捨
女が龍門寺のそば
に開いた寺。捨女は
6歳のときに「雪の
朝 二の字二の字の
下駄の跡」の句を読んだ俳人でもあります。



姫路市網干区浜田632 ☎079-272-0823

あぼしまち交流館

網干の魅力の発信拠点として2009年にオープン。
地場製品の販売や朝市などさまざまなイベントの
ほか、観光ガイドも
行っています。

姫路市網干区
余子浜12
☎079-255-8001



片岡家

魚吹八幡神社の秋祭りは、提灯練りや
ダンジリ、屋台の差し上げで有名です。他
にも、季節の祭りや味わい深い地酒の製
造など、独自の文化が育まれてきました。
戦国時代の天才軍師、黒田官兵衛は、
大名になったときに豊臣(羽柴)秀吉から
この網干の地を与えられたといわれてい
ます。最近ではあぼしまち交流館を拠点
に観光案内やイベントなどの町おこしを
行っています。また、毎年2月ごろに行わ
れる「網干かき祭り」にも大勢の人が訪
れます。

大覚寺

鎌倉時代に創建され、大覚寺境
内建造物4棟は市指定文化財。豊
臣秀吉も立ち寄った大寺院です。
姫路市網干区興浜15
☎079-273-8825



網干のまちなみ

「網干」の名前は、地区にある魚吹八幡神社の放生会(捕
まえた生き物を放す行事)の日に、漁師が殺生をやめ網を干
してお参りをしたことに由来するといわれています。
網干は江戸時代のはじめは姫路藩領でしたが、その後は
天領(幕府の領地)、龍野藩領、丸亀藩領に分かれるなどし
て、複雑な歴史をたどりました。そのため古い寺社や町並み
が残り、多くの文化財がある地区です。

祭り華やか歴史の町

網干

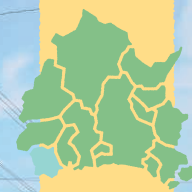
姫路市



生島



坂越大道



坂越

赤穂市

坂越の船祭

毎年10月第2日曜に行われる大避神社の秋の祭礼。

神社での神事の後、神輿や獅子舞が浜辺まで練り歩き、御旅所がある生島まで船渡御が行われます。

船が吹き流しや幟を立てて巡行する様子や日没後に提灯をともして島から帰ってくる様子が美しく、瀬戸内三大船祭りの一つに数えられます。国の重要無形民俗文化財に指定されています。



旧坂越浦会所

行政や商業のための村会所として1831~1832年に建築。赤穂藩主の休憩所としても使われました。2階の部屋「観海楼」からは坂越湾が一望できます。

赤穂市坂越1334 ☎0791-48-7755



大避神社

聖徳太子の臣下、秦河勝を祀っています。現在の本殿や拜殿は江戸時代に再建。坂越湾に浮かぶ生島を神地とし、毎年秋に坂越の船祭(国の重要無形民俗文化財)が行われます。

赤穂市坂越1299 ☎0791-48-8136



黒崎墓所

江戸時代の廻船業がさかんだった時期に、坂越浦海域で海難や病気で亡くなった他の地域の人たちの墓。「よそ三昧」ともいわれています。兵庫県指定文化財。

赤穂市坂越2909



坂越まち並み館

明治末期から大正時代の銀行であった建物(旧興藤銀行)を修復したもので、坂越の景観の中心。館内では、坂越の歴史や文化をパネルで紹介しています。また、銀行時代のアメリカ製大金庫も残っています。

赤穂市坂越1446-2 ☎0791-48-7770



大道が結ぶ川と海

江戸時代、瀬戸内海でも有数の廻船業(海運業)の地として栄えた坂越。千種川と坂越湾をつなぐ坂越大道には、当時のおもかげを残す美しい町並みを見ることが出来ます。

坂越湾に浮かぶ生島は、古来より人の立ち入りが禁じられたことから原生樹林が残り、国の天然記念物に指定されています。秋に開催される坂越の船祭(国の重要無形民俗文化財)では、生島への船渡御が行われます。

牡蠣養殖も盛んで、牡蠣などの海産物が食べられる「海の駅しおさい市場」は、冬になると県内外からの観光客で賑わいます。

坂越まち並み館や旧坂越浦会所、江戸時代から続く興藤商事といった歴史的建造物が保存された町並みは、市の景観形成地区に指定されているほか、塩や北前船に関する日本遺産の構成文化財など、多くの歴史文化遺産が残されています。

平成30年5月に、日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間・北前船寄港地・船主集落」の構成文化財として、坂越の文化財7件が認定
◆認定文化財 生島、坂越のまちなみ、旧坂越浦会所、黒崎墓所、坂越の船祭、船賃銀定法、大避神社の奉納物



たかさご万灯祭

高砂町が兵庫県の歴史的景観形成指定地区になったことをきっかけに2007年から毎年9月に開催されています。歴史的建造物や6kmにわたる路地がライトアップされ、町中が灯りに包まれます。ジャズコンサートや模擬店など、さまざまなイベントも行われます。

山陽電車「高砂駅」南側一帯
☎079-451-6796(高砂市シティプロモーション室)



三連蔵



高砂町

高砂市

高砂神社

じゅうりんじ
十輪寺
815年に弘法大師が建てたと伝わる寺。1207年、浄土宗祖法然上人が高砂に來られたことにより、浄土宗になりました。



高砂市高砂町横町1074 ☎079-442-0242

大崎家住宅

出格子、袖うだつ、坪庭といった町屋の意匠を持つ明治時代の建物です。国の登録有形文化財。



高砂市高砂町藍屋町1667
☎079-441-8076(高砂市観光交流ビューロー)

花井家住宅

別名「高砂來て民家」。漆喰の壁に虫籠窓が特徴の明治時代の古民家。国の登録有形文化財。



高砂市高砂町高瀬町1511 ☎079-443-5306

松宗蔵

1823年に建てられ、はじめは米蔵で、その後乾物の蔵として使われました。国の登録有形文化財。



高砂市高砂町東浜町1254
☎079-441-8076(高砂市観光交流ビューロー)

産業を支えるまち並み

池田輝政が高砂の町割り(都市計画)をし、本多忠政の時、現在の高砂町の基礎が築かれました。江戸時代ははじめから港を中心に舟運により栄え、堀川には大きな蔵が立ち並び、多くの高瀬舟が往来して繁栄したと伝えられています。

明治末期になると産業の中心が漁業や商業から工業に移り、町の様子も大きく変わります。しかし、町内には江戸時代からの民家や歴史ある寺や神社が数多く残り、かつての雰囲気は今に伝えていきます。特に、堀川周辺地区では、壁に漆喰、屋根に和瓦など伝統的な材料が使われ、木製の格子や虫籠窓など、建物の工夫を見ることができま。

これらのまち並みは兵庫県の歴史的景観形成地区に指定。「花井家住宅」「松宗蔵」「大崎家住宅」など国の登録有形文化財に指定された建物の活用も進んでいます。

高砂神社

高砂市高砂町東宮町190
☎079-442-0160





北条

加西市



五百羅漢

酒見寺

住吉神社龍王舞

住吉神社では毎年4月に北条節句祭りが行われます。東西の神輿と15台の屋台が町中を練り歩き、播州三大祭りの一つといわれる華やかな春の祭りです。

境内では龍王舞が行われます。舞は二つに分かれ、前半は猿田彦命が鉾を持って舞い、後半は素手で舞って人々の心を表します。龍王舞は兵庫県無形民俗文化財に指定されています。



北条の五百羅漢

羅漢寺境内に500体近い石仏[五百羅漢]が並びます。慶長年間に酒見寺の復興に併せて作られたと考えられています。兵庫県指定史跡。

加西市北条町北条1293 ☎0790-43-0580

酒見寺

745年に僧・行基が建てたといわれる寺。美しい色彩の多宝塔は国の重要文化財に指定されています。

加西市北条町北条1319 ☎0790-42-0145



住吉神社

奈良時代に建てられたといわれます。三棟が横並びになっている本殿とその前に建つ拝殿は、国の重要文化財。

加西市北条町北条1318 ☎0790-42-0423



歴史と今が溶け合う町
北条地区は、奈良時代に建てられた住吉神社や酒見寺の門前町として栄えました。山陽と山陰を結ぶ交通の拠点でもあり、江戸時代には商業の盛んな在郷町としても賑わった北播磨地域の中心的存在です。
その繁栄をもとに商人は豪華な家や店を建て、現在も建物に卯建や虫籠窓などを見ることが出来ます。
北条地区は現代も北条鉄道の始発駅や観光案内所、図書館やホール、ショッピングセンターなどが集まり、加西市の中心としての役割を果たしています。町並みは兵庫県の歴史的景観形成地区に指定され、保存や観光資源として生かす取り組みが進められています。
また、付近には個性豊かな表情の石仏がずらりと並ぶ五百羅漢、国の登録有形文化財に指定された大信寺などもあります。

地域交流広場「まちなか春陽堂」

築200年以上の歴史を持つ旧柏原春陽堂(御旅町)は改修されて、地域の人や子どもたちが集い世代を越えた交流ができる場となっています。

加西市北条町北条1090-3





室津

たつの市



室津港

波穏やかな天然の良港

8世紀はじめに編纂された『播磨国風土記』には「この泊、風を防ぐこと室の如し」と記され、三方を山と岬に囲まれた地形が風を防ぎ、部屋の中のように静かな港であることが室津の名前の由来だと伝えられています。室津は、奈良時代の僧である行基（774-836）によって整備されたという「撰播五泊」のひとつ。平安時代には賀茂神社が建てられ、平清盛も参拝したといわれています。江戸時代には、参勤交代で江戸と領地を往来する西国大名が、船の停泊や陸路と海路の乗り換え地点として利用し、「海の宿駅」として繁栄しました。また、北前船寄港地船主集落として日本遺産にも認定された歴史ある港町です。

明治時代以降は、海路から陸路へ交通手段の中心が移行したため、町並みがそのまま残り、「歴史とロマンの港町」として愛されています。谷崎潤一郎や司馬遼太郎など、多くの作家の作品にも取り上げられています。



小五月祭

賀茂神社の春の例祭。平安時代後期に室津の遊女の長・室君が、神社に「棹の歌」を奉納したことにちなんだ例祭です。

現在も鼓を持ち烏帽子をつけた少女たちが「棹の歌」を奉納します。「室津小五月祭（棹の歌）」は兵庫県重要無形民俗文化財に指定されています。



琉球使節行列図

（江戸時代 たつの市教育委員会蔵）

琉球（現在の沖縄県）の使節団をはじめ、朝鮮通信使や長崎のオランダ商館付の医師、ケンペルやシーボルトも室津を訪れました。

浄運寺

法然上人ゆかりの寺。上人の説法を聞き出家したといわれる遊女・友君の塚があります。

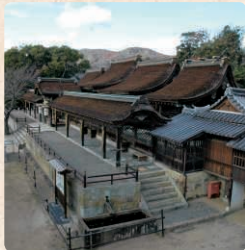
たつの市御津町室津168
☎079-324-0030



賀茂神社

港に突き出す丘陵に建つ神社で、参籠所からの眺めが素晴らしい。本殿等8棟が、国指定重要文化財。

たつの市
御津町室津74
☎079-323-3171



室津海駅館

廻船問屋として活躍した豪商「嶋屋」の建物を利用した資料館。特別展なども開催されます。

たつの市
御津町室津457
☎079-324-0595



室津民俗館

海産物問屋「魚屋」を改修した資料館。多数の部屋があり、かつての繁栄がうかがえます。

たつの市
御津町室津306
☎079-324-0650





柳田國男生家

日本民俗学を開拓・確立した柳田國男が生まれた家。國男はこの家を著書で「日本一小さい家」と書いています。兵庫県指定重要民俗文化財。

神崎郡福崎町西田原1038-12 ☎0790-22-1000



大庄屋三木家住宅

姫路藩の大庄屋を務めた三木家の屋敷。柳田國男が幼い頃にこの本を読み耽ったといわれています。令和2年度から、屋敷の一部(副屋他)を宿泊・レストランなど複合型ホテルとして活用しています。兵庫県指定重要文化財。

神崎郡福崎町西田原1106



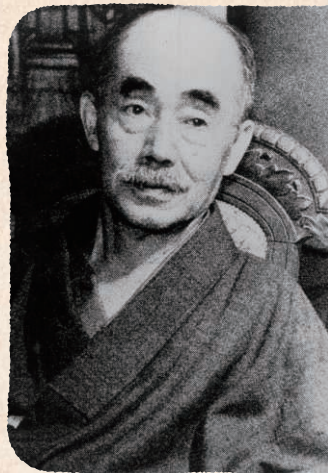
河童の河太郎と河次郎

辻川山公園のため池にいる河童の河太郎と河次郎。池の中にいる河次郎は、時間が来ると池の中から飛び出してくれます。

神崎郡福崎町西田原



鈴の森神社と学問の神様・菅原道真を祀る北野天満神社を結ぶ道を「学問成就の道」と呼んでいます。



柳田國男・松岡家記念館

國男の兄弟(鼎、通泰、静雄、映丘)も各界で大成しており、その兄弟5人の業績を顕彰する記念館。

神崎郡福崎町西田原1038-12 ☎0790-22-1000

柳田國男
1875年、神東郡辻川村の松岡家に六男として生まれました。
全国を歩いて庶民生活に生きる信仰、習慣、儀礼、行事などを研究し、日本民俗学を確立。著書に『遠野物語』『故郷七十年』『妖怪談義』などがあります。

神崎郡

歴史民俗資料館

明治時代に神東・神西郡役所(神崎郡役所)として建てられた擬洋風建築。主に福崎町の歴史資料や生活用具・農具などを展示しています。兵庫県指定重要文化財。

神崎郡福崎町西田原1038-12 ☎0790-22-5699



辻川界隈歴史・文化館(旧辻川郵便局)

大正時代に建てられた洋風の郵便局舎。現在は宿泊施設及びCafeとして活用しています。国登録有形文化財。

神崎郡福崎町西田原1022-1



辻川

福崎町

民俗学のふるさと

辻川地区は、福崎町の歴史・文化の中心地です。明治時代には生野鉱山寮馬車道(通称・銀の馬車道)→P・103が通っていました。銀の馬車道とは生野銀山(現在の朝来市)と飾磨津(現在の姫路港)を結ぶ馬車専用の道路で、日本初の高速度産業道路といわれています。

当時建てられた擬洋風建築の役所は現在も残り、辻川の歴史を感じさせます。

辻川は「日本民俗学の父」といわれる柳田國男や日本画家の松岡映丘らの兄弟が生まれた地区でもあります。町を流れる市川では河童が出るという伝説があり、國男の民俗学研究に影響を与えています。

大麦の一種「もち麦」を使ったもちむぎ麵(→P.6)が名産で、そばやうどんとは異なる独特の食感が特色です。

近年では、これらの地域資源を生かして町並み保存や観光振興に力を入れています。



平福

佐用町



NIPPONIA (ニッポニア) 平福宿場町

NIPPONIA (ニッポニア) 平福宿場町は、歴史ある町家「木村家」を活用した宿泊施設です。木村家は、かつて「松屋」という屋号でお酒をつくる酒屋を営んでいました。向かいの敷地には酒蔵のほか、お米を精米する場所や麹をつくる部屋など、酒づくりに関わる建物が並んでいました。

官民が連携して、こうした昔の建物を大切にしながら、木村邸は一棟貸しの宿泊施設に、酒蔵はレストランへと生まれ変わりました。

今では、宿場町の町並みや歴史を感じながらゆったりと過ごせる場所として、多くの人が訪れています。地域の人たちが力を合わせて守り、平福の魅力を伝える場所として活用されています。

佐用郡佐用町平福697-1 ☎090-3053-0700

平福の伝説



宮本武蔵 初決闘の地

宿場町として栄えた平福の金倉橋のためとで、1596年、宮本武蔵が初決闘をしたといわれています。

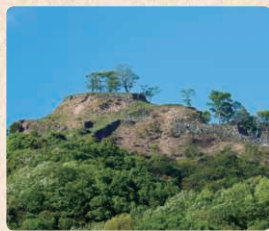
武蔵は当時13歳でしたが、新当流の達人、有馬喜兵衛に勝負を挑み、刀一振りです倒したといわれます。

武蔵は著書『五輪書』に、初決闘の13歳から29歳までの間に60回以上の勝負をし、すべて勝ったと記録しています。

利神城跡 (国指定史跡)

池田輝政の甥、池田由之が城主となり、5年かけて作った城。三層の楼閣は雲を突くように立派で「雲突城」とも呼ばれています。麓の御殿屋敷跡にも立派な石垣が残っています。

佐用郡佐用町平福・口長谷



平福陣屋門 (町指定建造物)

利神城が廃城となった後、平福は松平氏5千石の代官の支配となりました。現存する陣屋門は1864年に代官・佐々木平八郎が建築したと伝わっています。

佐用郡佐用町平福981-4



平福郷土館

江戸時代の代表的な町家の建築を再現した資料館。宿場町の商人が使っていた高い道具や民具、利神城ゆかりの品を展示しています。

佐用郡佐用町平福594 ☎0790-83-2635 (土日祝)



川面に映る宿場町

平福は、江戸時代のはじめに現在の町並みが作られ、その後、因幡街道の宿場町として栄えました。町並みは佐用川に沿って南北に1.2km続いています。

姫路城主・池田輝政が利神城の城主として塀の池田由之を派遣。平福は城下町として整備されました。城主の国替で城下町の役割を終えた後は、姫路と鳥取を結ぶ街道の宿場として、鳥取藩の本陣も置かれ賑わいました。街道沿いの文化交流により、町並みの中に播州系(播磨地方)の造りの家と作州系(岡山県美作地方)の造りの家の両方を見られるのが特徴です。

佐用川沿いの石垣や川座敷、川の水面に土蔵群が映る様子は平福らしい景色として愛されています。周辺には宮本武蔵に関する伝説が残る歴史豊かな地区でもあります。

この町並みを保存して未来に伝えようと住民と行政が一緒に取り組んでおり、兵庫県歴史的景観形成地区に指定されています。



中村・粟賀町

神河町

歴史や文化を感じる町

兵庫県景観形成条例の中村・粟賀町歴史的景観形成地区は、古くから播磨と但馬を結ぶ要衝として栄えました。江戸時代には、姫路から但馬への生野街道(但馬街道)の宿場町として賑わい、播磨・但馬・丹波、そして京・大阪・江戸へ人々やものを運ぶ中継地としての役割も果たしました。当時の様子を兵庫県景観形成重要建造物に指定されている旧難波酒造 国の登録有形文化財(形文化財)・竹内家住宅や屋号のある町屋(商家)からうかがい知ることが出来ます。また、明治時代になると、生野鉾山寮馬車道(通称:銀の馬車道(19103))が通り、町は日本の近代化を支える道路とともに発展してきました。松本庄郎という偉人の生家もこの通りにあります。

また、姫路、丹波、但馬への案内を記した江戸時代の石仏・道標や明治時代につくられた道路元標、そして地区全体に張りめぐらされた水路もあり、田園部と街道筋が融合した情緒ある町並みを感じることが出来ます。



銀の馬車道交流館

生野銀山と飾磨津(現在の姫路港)を結ぶ馬車専用の道路「銀の馬車道」に関する資料を展示しているほか、地域の交流拠点としても活用されています。

神崎郡神河町中村78 ☎0790-32-0737



旧難波酒造(国登録有形文化財)



竹内家住宅(景観形成重要建造物)

地域一帯のお茶の間屋としての役割を営んできた地域盟主の邸宅跡。天保12年(1841年)の粟賀火災により内蔵を残し他の建物は全焼したため、生野銀山の山師の邸宅の一部を移築したとされています。兵庫県景観形成重要建造物。

神崎郡神河町粟賀町533



よしとみかわら
吉富瓦

竹内家住宅や春日神社拝殿(兵庫県指定重要有形文化財)にも使用されている。



仙霊茶

生蓮寺の第6世定空上人が神河の地でお茶を植えたのをきっかけに栽培が盛んになった。後に製造販売した「仙霊茶」は、京都宝鏡寺の宮様から命名されて以降、毎年献上され、良質の茶として広く知られました。

生蓮寺

文禄4年(1595年)、観空智伝和尚が粟賀の地に念仏の教えが無いのを嘆き、浄土念仏の道場として生蓮寺を開きました。寺の名称の由来は、西山上人の歌「生きて身を蓮のうゑに宿さずば念仏申す申妻やなからん」の「生」と「蓮」からきています。

神崎郡神河町粟賀172-2

松本 庄一郎

～日本初の工学博士/日本鉄道のけん引者～

1848年、粟賀村(現・神河町粟賀町)の医師の家庭の長男として生まれました。1870年には、初の国費留学生としてアメリカに留学し、帰国後は、東京大学工学科教授も務めました。その後、国家的な鉄道施策をけん引し、日本初の工学博士を授与され、第二代鉄道庁長官に就任し、播但鉄道(現JR播但線)の敷設にも貢献されました。



松本庄一郎生家

中村・粟賀町歴史的景観形成地区(兵庫県景観形成条例)の銀の馬車道沿いに位置しており、昔ながらの宿場町の街並み景観の一つとなっています。一般公開 平日午前9～11時、午後1～3時(要予約) ☎090-8533-9059



食と産業



日岡山公園の桜(加古川市)



世界の梅公園(たつの市)



ホタルの光(姫路市)



ひまわり畑(市川町)



カメラを持ってお出かけはじめてみよう！
映える写真が撮れちゃうかも……？

播磨の四季
豊かな自然と人々の生活が共存する播磨地域には、暮らしを彩る四季折々の美しい景色があります。
一度は訪れたことがあるあの場所も、季節を変えてもう一度訪れてみると、姿を変えた新しい景色を楽しむことができます。



コスモス畑(稲美町)



延峰高原のススキ(神河町)



好古園(姫路市)



朝霧(佐用町)





かみかわちょう
姫路市・相生市・神河町 **ユズ**

10月～12月に旬を迎えるユズは、主に姫路市の安富町や相生市の小河地区、神河町で栽培され、ユズを使ったジャムやジュース、ゼリーなどが特産品として作られています。



たいしちょう
姫路市・太子町 **タケノコ**

主に姫路市の太市や太子町の松尾で栽培されています。特に太市のタケノコは、「姿は山城(京都)、味は太市」といわれる質の高さが有名で、アクが少なく、みずみずしいのが特徴です。



播磨灘
前どれ魚

目の前の海で獲れるタイ、スズキ、メバル、カレイ、ヒラメ、エビなどを使ってさまざまな料理が作られます。新鮮な海の幸に恵まれた、播磨ならではの食文化です。



播磨 **海**のもの **山**のもの

魚の宝庫・播磨灘で獲れる新鮮な海の幸。
そして内陸部や山あいでも獲れる山の恵み。

播磨の豊かな自然に育まれた食文化が、今も暮らしに息づいています。

かき
播磨灘 **牡蠣**

栄養が豊富で「海のミルク」ともいわれる牡蠣。播磨灘で獲れる牡蠣は、短期間で大きく成長するため、「一年牡蠣」と呼ばれます。殻いっぱい成長した身は大ぶりで食感が良く、播磨灘を代表する海産物の一つとなっています。



播磨灘
あなご
穴子

あかしかいきょう
明石海峡と播磨灘の潮流に育まれた播磨灘の穴子。特に身を開いて作られる焼き穴子は名産品としても有名です。



ひめじし あいまいし いなみちょう
姫路市・相生市・稲美町

メロン

メロンは表面に網目ができるものと網目のないものに大きく分けられます。相生市の「矢野メロン」や、稲美町の「いなみ野メロン」は網目があり、姫路市の「網干メロン」は網目のない品種です。



網干メロン

いなみ野メロン

矢野メロン



かみごおりちょう
上郡町

モロヘイヤ

カルシウムやカロテンなど、さまざまな栄養素が含まれている健康野菜。上郡町では、モロヘイヤをうどんに練り込んだ「円心モロどん」が作られています。



たにしちょう
姫路市・太子町

イチジク

主に姫路市や太子町で栽培されています。特に太子町で栽培される「太子いちじく」は県の認証食品で、厳しい品質検査に合格したものだけが出荷されています。

播磨灘

ハモ

ウナギに似た長い体とすどい歯が特徴的な魚です。あっさりとした白身の魚で、骨切りし、湯引きや天ぷら、しゃぶしゃぶなどに調理して食べられます。



姫路市 レンコン

姫路市の大津区勘兵衛町で、イネに代わる作物として栽培されるようになったのがレンコンです。アクが少なく、シャキシャキとした食感が特徴です。



あぐらぎん
宍粟市・神河町・佐用町

自然薯

自然薯は、古くから寒い冬を乗り切るための栄養食とされてきました。強い粘りがあり、とろろご飯や天ぷら、磯部揚げなどに調理されます。



播磨灘

シラス

シラスとはカタクチイワシの稚魚のこと。干したものはチリメンジャコといひます。カルシウムが豊富に含まれ、夏から秋にかけて旬を迎えます。

播磨灘

サバ・シャコ・ガザミ

播磨灘で獲れる海の幸には、マサバ(ぼうぜ鱈など)や、秋に旬を迎えるシャコ、ガザミ(ぼうぜがになど)があり、四季を通してさまざまな海産物を味わうことができます。



あこうし
赤穂市

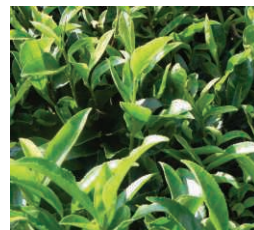
ミカン

赤穂のミカンは実が小ぶりで、酸味が強く糖度も高いため、コクのある味が特徴です。秋にはミカン狩りも行われ、もぎたてを味わうことができます。



神河町 茶

神河町吉富地区では、約300年前から茶の栽培がさかんとなり、皇室と縁のある寺院に献上し、「仙霊茶」の名をいただきました。仙霊茶を使ったお菓子なども作られています。



ひめじし
姫路市・
かこがわし
加古川市・
しろうし
宍粟市・
さようちょう
佐用町

和牛

但馬の名産となっている但馬牛をルーツとして、姫路和牛、加古川和牛、宍粟牛など、各地域の環境によって独自のおいしさを持つ黒毛和牛が育てられています。



いなみちょう
稲美町

スイートコーン・トマト・キャベツ

稲美町は県下有数の野菜の産地で、50年以上前から栽培され、国の指定産地になっているキャベツをはじめ、トマトや甘みたっぷりのスイートコーンなどの栽培がさかんです。





姫路おでん 姫路市 ①

だしがしみ込んだおでんの具にしょうが醤油をかけて食べるのが姫路おでん。昭和初期から姫路の人々に親しまれてきた家庭の味です。



ご当地 グルメ

かつめし 加古川市 ②

叩いて平たくしたピフカツをご飯の上に乗せてデミグラスソース系のタレをかけ、ゆでたキャベツをそえたもの。お箸で食べるのがポイントで、加古川市やその周辺で親まれています。



ホルモン焼きうどん 佐用町 ③

古くから町の食堂などで提供されていたホルモン焼きうどん。たれをつけて食べるという独特の食べ方で、今も多くの人に愛されています。



播磨灘ノリ 高砂市 ④

播磨灘はノリの養殖を行うための条件が整っており、全国的にも有数の産地となっています。海の中に浮き網を張って育て、12月には初摘みが行われます。

高砂市・宍粟市 ブルーベリー

高砂市・高御位山のふもとや宍粟市で栽培されています。またブルーベリーを使ったチーズケーキやジャム、アイスなども作られています。



にくてん 高砂市 ⑤

うすくのばした生地に煮込んだじゃがいもやすじ肉、こんにやく、キャベツなどをのせて焼き、半分に折ってソースをかけて食べるのがにくてん。高砂風のお好み焼きです。



塩ラーメン 赤穂市 ⑥

古くから塩づくりが盛んな赤穂で、上質な塩を使って作られるラーメンです。お店によって異なるだしに赤穂の塩がマッチした、オリジナルの塩ラーメンが作られています。

かしわもち 高砂市 ⑦

願いごとを一つ決めてお参りすれば叶う「一願成就」の神様が祭られる鹿嶋神社。神社の周りでは昔から良質のもち米がとれたため、かしわもちが作られて奉納されてきました。



ゆで干し大根 稲美町 ⑧

ゆで干し大根は、稲美町母里地区の草谷に伝わる郷土食です。大根を棒状に切って干したものをせいろで蒸し、再び天日干することで、深い甘味が増していきます。



かしわめし 市川町 ⑧

かしわめしとは、市川町産のかしわ(鶏肉)を使ったませご飯のこと。各家庭で鳥を飼っていたころは、町内で行事があるとかしわめしが振る舞われる慣習がありました。



加西市・佐用町 上郡町 ブドウ

種なしブドウの栽培技術をいち早く導入してきた加西市では、地域ブランドの加西ゴールドデンバリーAをはじめ、ブラックビート、ピオーネ、藤稔、シャインマスカットなど多彩な品種が育てられています。佐用町でも「三日月高原ぶどう」として寒暖差を利用し、ぶどうが栽培されています。上郡町のブドウは産地直売が自慢です。



宍粟市 黒豆

古くから県内の特産物として有名な黒豆が「丹波黒」です。宍粟市では、豊かな自然の中で育った良質の黒豆が収穫されています。



姫路市・宍粟市・ たつの市・上郡町・佐用町 鮎

播磨を流れる揖保川・千種川などでは、古くから鮎漁がさかんに行われていました。豊かな水と激しい川の流れによって身が引き締まった鮎は、さまざまな郷土料理に使われます。



醤油

龍野で醤油づくりが始まったのは戦国時代といわれています。地域を流れる揖保川の水質が醤油づくりに適していたこと、揖保川からの船便で京都や大阪に醤油を運べたことなどが、醤油づくりが発展した理由です。

江戸時代になって、醤油づくりの途中で甘酒を加えた「うすくち醤油」が発明されました。色がうすくち香りが良い独特の風味は、京都や大阪など関西を中心に好まれました。

たつの市にある、うすくち龍野醤油資料館では、昔の貴重な醤油づくりの道具を展示しており、醤油づくりの映像を見ることもできます。資料館の建物はアーチ形の窓が美しいルネサンス様式で、国の登録有形文化財に指定されています。



メイドイン播磨

播磨には郷土色豊かな伝統産業が数多く存在します。

日本酒

播磨は日本酒づくりがさかんで「日本酒のふるさと」といわれます。

その理由は、1300年前の『播磨国風土記』に麴を使った日本酒のつくり方が初めて登場しているからです。また、酒米の王様山田錦が誕生したのも播磨です。山田錦は他の酒米に比べて粒が大きく、酒づくりに大切な心白(米の中心部)が大きいのが特徴です。山田錦を使ってつくられた日本酒は香りが良くまろやかな味わいになるため「最高級の酒米」といわれます。

また、播磨の気候風土は日本酒づくりに適しており、播磨五川(加古川、市川、夢前川、揖保川、千種川)と呼ばれる川の流域を中心に21の酒蔵があります。山田錦と豊富な川の水を使って、それぞれの蔵が個性を競い合いながら酒づくりをしています。このような播磨地域の歴史や酒文化が評価され、2020年3月に国が農作物や食品の地域ブランドを保護する地理的表示(GI)に「はりま」が指定されました。



2024年12月に日本の「伝統的造り」がユネスコ無形文化遺産に登録されました!



そうめん



太子町の斑鳩寺に残る室町時代の寺院日記「鱈庄引付」には「サウメン」の記述があり、播磨では約600年前からそうめんが食べられていたと考えられます。揖保川の水、播州平野の小麦、赤穂の塩と原材料に恵まれたために一大産地となり、江戸時代には龍野藩がそうめん製造と販売の許可を出していました。

明治時代にそうめん製造者が集まって組合を作り、茹で伸びしにくく、滑らかな舌触りとコシのある歯切れのよい食感の「揖保乃糸」ブランドが誕生しました。

現在は、姫路市、たつの市、宍粟市、太子町、佐用町に組合員があり、手延べそうめんの生産量は全国トップを誇ります。2024年8月に国が農作物や食品の地域ブランドを保護する地理的表示(GI)に「揖保乃糸」が指定されました。



庭田神社

「播磨国風土記」と奈良時代の「播磨国風土記」には「伊和大神が携えていた干飯にカビが生えたので、それで酒をつくりお供えして宴を開いた。」と書かれ、麴から酒をつくった日本で初めての記述とされています。この酒をつくった場所が宍粟市の庭田神社といわれ、播磨の各酒蔵は当時の製法を再現した「庭酒をつくります」。

「播磨国風土記」と庭田神社

かりんとう

「姫路駄菓子」として知られるかりんとうは、江戸時代から藩の支援を受けて作られていました。伝統を生かした懐かしい味が愛されています。



イカナゴくぎ煮

3月上旬、播磨灘で水揚げされるイカナゴ。甘辛く炊いたイカナゴの茶色く曲がった姿がさびた釘に似ているので「くぎ煮」と呼ばれます。



バジル製品

農薬の使用を最低限に抑え、有機質肥料のみで露地栽培された朝摘みバジルは、ドレッシングなど、様々な製品に加工されています。



味噌

佐用町特産で地理的表示(GI)保護制度に登録された佐用もち大豆、佐用産の米、赤穂の塩だけで約10カ月間ゆっくり熟成した「もち大豆みそ」や太子町産の米と大豆を使った「太子みそ」など個性豊かな味噌が作られています。「太子みそ」を使ったみそコロッケ、太子みそ煮込みうどんなど地域グルメも開発されています。



ソバ

姫路市夢前町や佐用町三日月などでソバが生産されています。そば畑が広がる夢前川沿いの県道を「夢そば街道」と名付けPRしています。



梅製品

綾部山梅林があるたつの市御津町では、青梅のほか、梅干し、梅ジャムなど、さまざまな梅製品がつくられています。



山椒醤油

山椒の実をすりつぶして醤油を加えた山椒醤油は、もとは夏にうなぎを焼くために各家庭で作られました。宍粟市波賀町の「道の駅みなみ波賀」で販売しています。



塩

赤穂は古くから塩の産地として栄えてきました。塩は海水の水分を蒸発させてつくります。江戸時代には、海の潮の満ち引きを利用した入浜塩田という製塩法が完成され、その製法は瀬戸内地方に広く伝わりました。現在の赤穂市立民俗資料館は明治時代以降、旧大蔵省の塩務局(専売局)の庁舎として使われていたものです。

戦後は流下式塩田が主流になりました。傾斜をつけた地盤と竹の枝を組んだ房へ海水を流し、乾燥を促すことで濃度の濃い塩水を得る方法で、1970年頃まで続きました。

赤穂市立海洋科学館・塩の国では、昔からの塩田を再現しており、塩づくりの歴史を知ることができるほか、塩づくり体験をすることもできます。

赤穂で使われた製塩用具は、国の重要有形民俗文化財に指定されています。

令和元年5月に『日本第一』の塩を産したまち播州赤穂が日本遺産に認定されました。



かまぼこ



播磨灘に面し、魚介類が豊富に手に入る姫路では、古くからかまぼこやちくわ作りがさかんに行われています。瀬戸内海名物の穴子を使ったかまぼこ、蒸したものの、揚げたものなど、さまざまな種類があります。姫路市内にあるかまぼこメーカーでは、工場見学やかまぼこ作り体験をすることができます。

もちむぎ^{めん} 麺



もち麦は大麦の一種で、普通の麦よりももちもちした食感が特徴です。福崎町で生産したもち麦を、播州素麺の手延べ技法で仕上げたもちむぎ麺。うどんともそばとも違う独特の食感が愛されています。「もちむぎのやかた」では、製造のようすを見学したりもち麦料理を味わったりすることができます。

地場産業



くつした
靴下

明治時代、志方町（現在の加古川市）の住民が中国の上海から手回しの編み機を持ち帰ったことから靴下製造が始まりました。現在では、全国でも有数の靴下産地であり、兵庫県で靴下産業を営む事業者のうち、約7割は加古川市内にあります。



マッチ

明治初期に始まったマッチ生産は、貿易港がある大阪や神戸に近いため姫路地域で栄えました。現在も姫路市・太子町で全国の約9割を生産し、箱に宣伝などを印刷する広告マッチが人気です。



ひかく
皮革

姫路や龍野地域は皮なめしに欠かせない川が近いために古くから皮革産業が発展し、現在も牛革の生産量は日本一です。最近ではレザーファッションショーやレザークラフト体験、皮革まつりなど、皮革製品に親しむ催しやPR活動を行っています。



アイアンヘッド

1930年、刀鍛冶の技術を活用してゴルフクラブのアイアンヘッドが日本で初めて市川町で製造されました。その後、アイアンヘッドの生産は姫路地域に広がり、播磨の地場産業として定着しました。姫路市、市川町には現在もゴルフ関連企業が数多くあります。



くさり
鎖

姫路では江戸時代から釘づくりが発達しており、大正時代に鎖づくりへと発展しました。船の錨をつなぐ鎖からネックレスのチェーンまで、鎖の大きさや使い方はさまざまです。全国で生産される鎖の6割が姫路でつくられています。



にかわ・ゼラチン

にかわやゼラチンは、牛や豚など動物の皮や骨を原料とする天然の接着剤です。にかわは文化財の修復や絵画など、ゼラチンは食用や医療用にも使われます。姫路や龍野地域で皮革産業がさかんなために産地となりました。



ひめじがんぐ
姫路玩具

姫路張子は、不要になった和紙（反故紙）が豊富にあった城下町の姫路で作られた、張り子のお面や人形。姫路独楽も幕末から明治にかけて作られた美しい民芸品です。



伝統工芸品



みょうちんひばし
明珍火箸

江戸時代後期、甲冑師の家柄である明珍家が茶室用の火箸を作ったことが始まりです。火箸の型は20種類以上あります。火箸が触れ合ったときに澄んだ美しい音がすることから、近年、風鈴として利用されています。



ひめかわざいく
姫革細工

姫路の伝統的な革細工は、上質の牛皮を白く柔らかく加工した革に、模様を型押しし、一つ一つ筆で絵付けをして、うるしなどで仕上げたもので、独特のしぼの風合いが美しく、使うほどに味わいが増していきます。財布やかばんなどが作られています。



あこうだんつう
赤穂緞通

赤穂の女性、児島ながが江戸時代末期に始めた手織りの敷物です。美しい模様が特徴で皇室や高級料亭にも好まれてきましたが、戦後は機械化の波に取り残され衰退しました。平成になって再び技術の保存や普及に取り組んでいます。



くにかねたてぐ
国包建具

加古川市の国包地区は、江戸時代に加古川を使った舟運の寄港地でした。そのため多くの木材が集まり、建具づくりが始まりました。緻密な細工を施したデザインが特徴で、中でも釘を使わない「組子」という技術では職人の技が光ります。



たつやまいし
竜山石

高砂市宝殿山あたりで採れる石を竜山石といいます。この石は加工しやすいため、建築や造園の石材として古くから使われています。石色は青・黄・赤の3色があります。

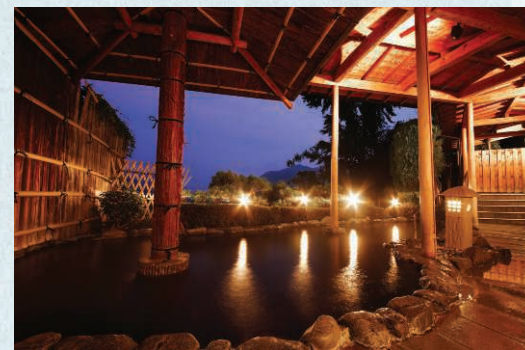


神社仏閣と祭り

温泉

はりま 播磨には数々の温泉地があり、観光だけでなく療養の場所としても多くの人々が訪れていました。その中でも特に歴史の深い2つの温泉をご紹介します。

ゆめさきがわ 姫路の清流夢前川の上流にあり、「姫路の奥座敷」として親しまれてきた温泉です。古くから神経痛や筋肉痛、とりわけ胃腸に関する病に効くことで知られ、江戸時代には県内各所や中国・四国地方から多くの人々が療養に訪れていました。周辺は豊かな自然に恵まれ、春は桜、夏はホタル、秋は紅葉、冬は雪景色、といった四季折々の表情や、登山やハイキング、サイクリングなどのレジャーを楽しむことができます。



古くから療養の地として名高い“姫路の奥座敷”

しおたおんせん 塩田温泉

ひめじし 姫路市



瀬戸内海の絶景が広がる“よみがえりの湯”

あこうみさき 赤穂温泉

あこうし 赤穂市



せとないかい 瀬戸内海に面した赤穂御崎にある温泉。健康回復や美肌効果に優れているとされ、別名「よみがえりの湯」ともいわれています。赤穂御崎からは瀬戸内海の島々や四国までの景色が望め、ここからの夕陽は「日本の夕陽百選」に選ばれています。また春には、約1,700本という多くの桜が満開を迎えます。近くには潮干狩りや海水浴が楽しめるビーチもあり、観光客で賑わいます。

訪ねてみよう!

播磨の寺・神社



三重塔

日本有数の古塔、
国宝「三重塔」がある
一乗寺

加西市

650年、孝徳天皇の命で法道仙人により建てられたといわれるお寺です。平安時代後期の1171年に建てられた日本を代表する古塔の一つである三重塔や、最澄など天台宗で位の高かった僧と聖徳太子が描かれた「聖徳太子及天台高僧像」があり、三重塔とともに国宝に指定されています。また本堂、護法堂、妙見堂、弁天堂、五輪塔は国の重要文化財に指定されており、当時の豊かな仏教文化にふれることができます。



本堂



弁天堂

加西市坂本町821-17 ☎0790-48-2006(本坊)

県内で最も古い木造建築がある

播磨の法隆寺

鶴林寺

加古川市

聖徳太子が16歳の時、秦河勝に仏教を広めるための道場をつくるように命じ、釈迦三尊と四天王を祀り「四天王寺聖霊院」と称されたのがこの寺の始まりとされています。国宝「本堂」をはじめ、平安時代の壁画がおさめられた県内で最も古い木造建築である国宝「太子堂」や、泥棒が盗んで壊そうとしたら声が聞こえてきたため改心したと伝えられている「聖観音立像」(おいた観音)など多くの文化財があり、播磨の法隆寺とも呼ばれています。



本堂

加古川市加古川町北在家424 ☎079-454-7053



三重塔

鶴林寺ゆかりの人物

秦河勝

聖徳太子に仕えた飛鳥時代の人物。鶴林寺を建てたほか、坂越をはじめとした赤穂郡の千種川流域を開いたともいわれ、大濩神社には秦河勝が祀られています。

伝統行事

修正会(鬼追い)



正月に前の年の悪い行いを正し、新しい年が良い年になるように祈る法要が修正会です。この中で、鬼たちが人々の厄を払う伝統行事「鬼追い」が行われます。



太子堂

伝統行事

御田植祭



その年の稲が豊作になるように、
災いをもたらす害虫を疫病神とし
て神社に閉じ込め、大地に祈りをさ
さげる儀式が御田植祭です。農業に
関わる儀式の中で最も重要な行事
として受け継がれ、祈穀祭とあわせ
て姫路市の重要無形民俗文化財に
指定されています。

伝統行事

鬼追い



一年の厄を払い、作物の豊作
を祈る儀式で、平安時代から行
われていた行事とされています。
動明王の化身・青鬼・薬師如来
の化身・空鬼と16の小鬼が、鈴と
たいまつを持って踊ります。

733年に中国から帰国し
た遣唐使の吉備真備によって
建てられたといわれます。黒田
官兵衛の祖父重隆は、廣峯神社
のお札とともに黒田家に伝わ
る秘伝の目薬を売って財をな
したといわれ、のちの黒田家発
展の基礎を築きました。本殿、
拝殿、宝篋印塔が国の重要文化
財に指定されています。



廣峯神社

1200年以上の歴史を持つ
黒田家ゆかりの神社



姫路市広嶺山52
☎079-288-4777

聖徳太子が寺を建て、高麗
の僧・惠便を住まわせたところ
から始まる古刹です。1573
年に別所長治によって焼かれ
てしまいましたが、姫路城主・
榊原忠次が現在の本堂を建て
ました。その本堂をはじめ、
経堂・開山堂などの建物や脇侍の
木造毘沙門天立像が、国の重要
文化財に指定されています。



随願寺

聖徳太子が建て、
行基が大きく発展させた寺



姫路市白国3-12-5
☎079-223-7187

古くから人々が多く訪れる
西の比叡山
圓教寺
九州から京都へ向かっていた性空上人が、
文殊菩薩のお告げによって966年に庵を
開いたのが始まりとされています。その後、
花山法皇が教えを受けに来山。大講堂を建立
し、書寫山圓教寺と名付けました。今も多く
の人々の信仰を集め、西の比叡山といわれて
います。大講堂、食堂、常行堂その他多くの建
物が国の重要文化財に、境内は史跡に指定さ
れています。



姫路市書写2968
☎079-266-3327



圓教寺
ロケ地ガイド

圓教寺の静かで神秘的な風景を、多
くの映画やドラマで見ることができます。

- ロケ地となった作品
- G.I.ジョー 漆黒のスネークアイズ(映画)
- 3月のライオン(映画)
- 軍師官兵衛(NHK大河ドラマ)
- ラストサムライ(映画) ほか



軍師官兵衛の撮影風景
写真提供:姫路フィルムコミッション

圓教寺ゆかりの人物
性空上人
貴族の家に生まれ、修行を重ね僧となりま
した。法華経を全て記憶し、徳の高さから
都の皇族や貴族から敬われました。圓教寺
を開いたあとも仏の道を進み、98歳でその
生涯を終えました。



性空上人が開いた圓教寺の奥の院
弥勒寺

1000年、性空上人が93歳
の時にこの地に移り、庵を開
いたのが始まりといわれる
お寺です。本堂や、本堂内の
彌勒仏、両脇侍仏が国の重要
文化財に指定されています。

姫路市夢前町寺1051
☎079-335-0330





三重塔

推古天皇から損保郡の水田を授かった聖徳太子が、この地を「鵜荘」と名付け、その中心にお寺を建てたのが始まりといわれています。その後鵜荘は、法隆寺の荘園として千年近くにわたり栄えました。



損保郡太子町鵜709
☎079-276-0022



太子町

斑鳩寺

聖徳太子によって建てられ、今も町の中心となっている寺

斑鳩寺ゆかりの人物 聖徳太子

聖徳太子は飛鳥時代に生まれた皇族で、自身は天皇にならず、推古天皇を助けて政治を行いました。身分や家柄でなく一人一人の才能を重視して、有能な人を役人にする冠位十二階のしくみや、政治の決まりごとを定めた十七条の憲法をつくりました。



たつの市新宮町宮内342 ☎0791-75-5450(歴史文化財課)

天満神社

学問の神様、菅原道真が祀られている

南北朝時代、城山城に災いをもたらす方角を守るための寺が建てられ、その中心にくられた神社です。学問の神様といわれる菅原道真が祀られ、1544年に建て替えられた本殿が国の重要文化財に指定されています。



たつの市



生石神社

一辺が5m以上もある巨石「石の宝殿」がある



高砂市

高砂市阿弥陀町生石171
☎079-447-1006

古くから多くの人々が訪れた石の宝殿

「日本三奇」の一つに数えられる巨石。ドイツの医学者シーボルトのスケッチ、歌川広重の浮世絵「播磨龍山」など18種類以上の絵図が刊行されており、古くから多くの人の心をひきつけてきたことが分かります。江戸時代には延べ140人ももの西国大名が訪れたといわれています。



宝殿山の中腹にある神社で、岩盤を削り出してつくられた巨大なご神体「石の宝殿」があります。水面に浮いているように見えることから「浮石」ともいわれ、国の史跡に指定されています。

御形神社

干支の絵が描かれたジャンボ絵馬が有名な



宍粟市

1527年に建てられた本殿は室町時代後期の特徴がみられ、国の重要文化財に指定されています。毎年12月に翌年の干支が描かれるジャンボ絵馬や、兵庫県固有の種である「正福寺桜」があることでも知られています。



宍粟市一宮町森添280 ☎0790-74-0013



犬伝説が
伝わるお寺！

神崎郡神河町中村1048 ☎0790-32-0164

「播州犬寺」ともいわれる法楽寺は、飛鳥時代に当地に住んでいた杖夫という有力者が、飼っていた2匹の忠犬を弔うために建立したといわれる寺院です。本堂、春日社が県の文化財に指定されています。

法楽寺

神河町
5



市内一の
紅葉の名所！

加西市国正町15

今の姫路市英賀に15世紀末、蓮如上人によって開かれ、1580年に豊臣(羽柴)秀吉によって亀山に移されました。明治の初めに本堂が焼失し、新撰組屯所だった京都西本願寺の北集会所が移されました。NHK大河ドラマ「新撰組」「軍師官兵衛」や映画「本能寺ホテル」のロケ地にもなっています。

亀山本徳寺

姫路市
1



日本最古の
石仏がある！

古法華寺

加西市
6



茅葺きの
屋根がある！

神崎郡神河町福本402 ☎0790-32-0161

1665年に初代福本藩主である池田政直が菩提寺。先祖の霊を供養するお寺として建てた寺院です。本堂と山門は茅葺き屋根の貴重な建物で、県の文化財に指定されています。また境内には池田家八代のお墓があります。

徹心寺

神河町
7

加西市西長町1096

古法華自然公園内にある古法華寺には、およそ1300年前に彫られた日本最古の石仏とされ国の重要文化財の「石造浮彫如来及両脇侍像」がおさめられています。またNHK大河ドラマ「武蔵 MUSASHI」のロケ地にもなっています。



壁面に彫られた5体の仏様。皆崎磨崖仏。揖保川に沿ってそびえ立つ岩の壁に彫られた地蔵で、1354年に彫られたものであることが記されています。北側にも岩に彫られた4体の地蔵があり、いずれも県指定史跡です。

皆崎磨崖仏

たつの市



同じ形の
4つのお社！

加古郡播磨町本社4-11-21 ☎079-435-2918

江戸時代初めの建築で、県の文化財に指定されています。檜の皮で屋根を覆った檜皮置で、同じ形をした社が4つ並び、それらを廊橋で結んだ珍しい神社です。4つの社は全て西向きに建てられており、それぞれ底筒男命、中筒男命、表筒男命、息長帯姫命を祀っています。

阿閉神社

播磨町
4



新撰組の
刀傷がみられる！

姫路市亀山324 ☎079-235-0242

およそ1200年前に、近江の日吉神社から神のみたまを授かって建てられた神社です。神の使いは猿で、本殿には、「眼猿」「口猿」「耳猿」の彫刻があります。参道にある鳥居が県の文化財に指定されています。

日吉神社

加西市
3



「神の使い」猿が
いる！

加西市池上町7 ☎0790-45-1616



全国から訪れる神様を迎えるための美しい山が作られる



一ツ山大祭・三ツ山大祭

一ツ山大祭・三ツ山大祭は、瀬戸内海で起った藤原純友の乱が静まるよう願いをささげたことから始まったといわれ、播磨をはじめ全国の神様を播磨国総社に招き、総社の神様とともに国の平安と発展を祈る祭りです。祭りでは、人形や造花などで美しく飾られた高さ約18mにもなる「山」が作られ、これが神様を迎えるための場所となります。山を作るための見本をひな型といい、国の重要有形民俗文化財に指定されています。一ツ山大祭が行われるのは60年に一度で、臨時祭として三ツ山大祭が20年に一度行われます。一ツ山・三ツ山祭とも、県の重要無形民俗文化財に指定されています。

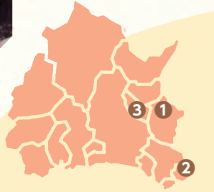


姫路市総社本町190 ☎079-224-1111

鬼たちによって災いや邪気を払い人々の健やかな暮らしを祈る

鬼追い

鬼追いは、さまざまな災いや悪霊を鬼たちによって払う行事です。ここで登場する鬼とは、昔話に出てくるような悪さをするものではなく、仏様が姿を変えたものと考えられています。鬼たちが松明や鉾、槌などをもって踊り、激しく暴れることで邪気を払い、人々の健やかな暮らしを祈ります。加西市の東光寺、加古川市の鶴林寺、稲美町の高蘭寺、姫路市の魚吹八幡神社、園教寺、随願寺、八葉寺、福岡町の神積寺などで見ることが出来ます。



獅子舞

獅子舞は、獅子の面をかぶった踊り手が笛や太鼓の音色に合わせて踊るもので、豊作や厄ばらいなどを願って全国各地で行われてきました。もともとは室町時代に伊勢国(現在の三重県)で飢えや病を追い払うために獅子の頭をかざり、正月にそれをかぶって舞いを踊ったことに由来するといわれています。その後全国に広まり、こどもの手足や頭を噛むと災いや病払いになるともいわれるようになりました。

播磨の獅子舞



おかしおてんまんぐう
1 大塩天満宮獅子舞
県指定無形民俗文化財



まうら
3 真浦の獅子舞
県指定無形民俗文化財



いぬかい
2 犬飼獅子舞
県指定無形民俗文化財



なげはちまんじんか
6 柳八幡神社の獅子舞
県指定無形民俗文化財



あこうほりまんぐう
5 赤穂八幡宮獅子舞
県指定無形民俗文化財



あまじ
4 甘地の獅子舞
県指定無形民俗文化財



3 神積寺鬼追い
神崎郡福岡町東田原1905
☎0790-22-0339



2 高蘭寺鬼追式
加古郡稲美町野寺851
☎079-495-0027



1 東光寺鬼会
県指定重要無形民俗文化財
加西市上万願寺町392